



JCHO南海医療センター 病院長

森本 章生氏

医療体制整備へ「救急科」開設

新病院が稼働して1年が過ぎた。心臓カテーテル検査や冠動脈インターベンション、腹部救急手術、緊急透析などの救急医療に対応できる設備を拡充し、24時間体制で患者を受け入れている。屋上のヘリポートは県南の救急医療体制に欠かせない存在。大分大学医学部附属病院高度救命救急センターと連携し、ドクターヘリで同センターまで約15分で患者を搬送する。4月に「救急科」も開設し、同セ

ンターから医師が1人派遣されている。災害拠点病院としての機能も強化した。免震構造を取り入れ、津波被害を想定して最上階の9階に自家発電機を設置。ヘリポートには防災ヘリも着陸でき、物資や災害派遣医療チーム（DMAT）の空輸も可能となった。感染症に対応し、症状のある患者と通常の外来患者の動線が分けられる構造になっており、新型コロナウイルスの感染拡大後も混乱な

く診療を続けている。昨年末には駐車場も完成。新病院の工事は全て完了した。設備が整う一方で、依然として医師不足が大きな課題となっている。医師の負担軽減に頭を悩ませ、担当外の診療も引き受ける医師の努力に頼っている現状に危機感を募らせながらも、「大学への派遣依頼と同時に、働きながらレベルアップできる、医師にとって魅力的な環境を整えていきたい」と前を向く。

大分大に協力して地域医療実習を受け入れ、卒業後の臨床研修も受け入れるなど積極的に人材育成に関わり、「県外出身者も、佐伯を気に入って県内に残ってくれば」と願っている。自身も県外の北九州市出身。大分医科大学（現・大分大学医学部）を卒業し、1989年から佐伯市で勤務するようになった。通算約30年。市内で家族と暮らしている。「初めて佐伯に来たとき、前々院長から『地域医療をやるなら、しっかり腰を落ち着けてやらないと患者さんは信用してくれない』と言われた。その言葉を今でも覚えている」と話す。「佐伯の医療を守る」という強い使命感で、医療体制整備のために今年も奔走する。



2020年12月グランドオープン

病院DATA

●診療科目

消化器内科・循環器内科・血液内科・内分泌代謝内科
外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・放射線科
耳鼻咽喉科・心臓血管外科・皮膚科・救急科
麻酔科（石田昌一）・形成外科・リハビリテーション科

●診療受付時間

月～金／8:00～11:00

●休診日

土曜、日曜、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）



独立行政法人 地域医療機能推進機構

南海医療センター

佐伯市常盤西町7番8号
TEL0972-22-0547（代表）
<https://nankai.jcho.go.jp>

